

平成26年度 現職教育計画

1 研究主題

すべての生徒が共に学び合う授業の追求
～協同的な学びを通して～

2 主題設定の理由

本校の生徒は、ほとんどの生徒が落ち着いて授業を受けており、教師から指示されたことを素直に受け入れ学習に取り組んでいる。しかし、自ら進んで学ぼうとする意欲が乏しい生徒や基礎・基本が十分に身につけていない生徒が多く、学力が身につかない生徒や学力に伸び悩んでいる生徒が多く見られる。そのためか、自分に自信がなく、生活に関するアンケートでも自尊感情が低い傾向がある。

そこで、昨年度から生徒が意欲を持って学習に取り組み、自尊感情を高めるために、手だてとして「学びの共同体」を取り入れた授業を取り入れている。これまでの取り組みの結果、次のような成果が見られた。これまでほとんど自分の意見を言わなかった生徒や、自分の能力の限界を自分で決めてしまっていた生徒から、「友だちと意見交換できて楽しい。」とか、「より高いレベルの問題にチャレンジできてやる気が出てきた。」というような声が多く聞かれるようになり、「待ち」の姿勢から「自ら意欲的に」学習に対して取り組んでいこうという姿勢が見られるようになった。また、教員の間にも生徒にとって「学びがいのある学習課題とは何か」「その学習課題は適切か」など、率直にお互いの考えを述べ合う「同僚性」が見られるようになった。生徒だけでなく教員にも「学ぶ」ことの楽しさを味わうことができるようになりつつある。

しかし、一方で、グループ学習の際に、自分から「分からない」「教えて」と言い出せない生徒や、よく発言をする生徒が中心となってしまうことが多いなどの課題が出てきた。また、「共有の課題」や「ジャンプの課題」の課題が生徒にとって適切かどうか、板書が生徒の学びを促すものになっているかなどの点において、教員側にも取り組んでいかなければならない課題が見られた。

そこで、本年度も昨年度の取り組みを深化させつつ、引き続き、「すべての生徒が共に学び合う授業の追求～共同的な学びを通して～」を研究主題とする事とした。

3 めざす教師の姿、生徒の姿

教師の姿

- 生徒たちと生き生きとした関係を築き、学習を促進し、援助する力を磨く。
- 社会事象を教材として取り入れ、学習課題に再構成し、教材の開発と授業の展開を遂行する力を身につける。
- 授業を生徒の学ぶようするから振り返り、改善しようとする力を身につける。
- 学習でつまづいた生徒や困っている生徒を他の生徒とつないだり、生徒の意見を教材に「もどす」力を身につける。

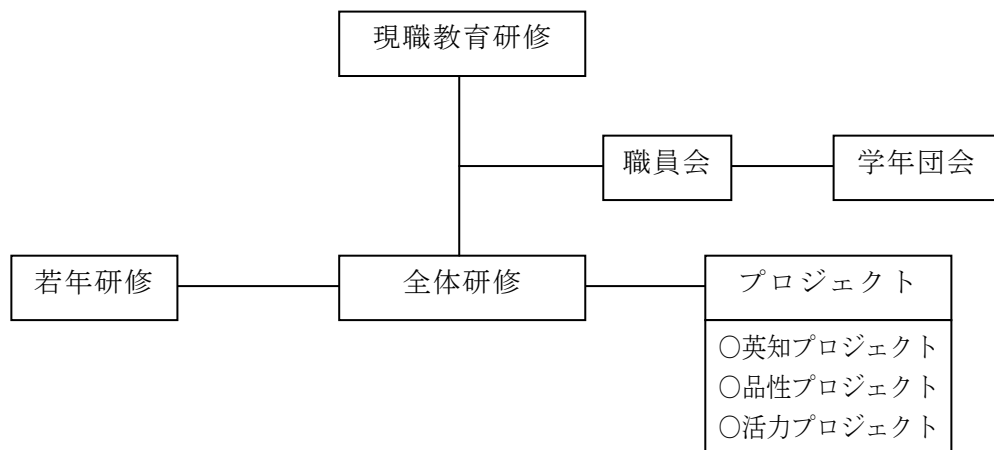
生徒の姿

- 自分の課題に気づき、それを解決するために、意欲的に学習する生徒。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するための学力を身につける。
- 自ら課題に対して、主体的に考え、意欲を持って表現できる生徒。
- 友達を支え合い、わからないことをわからないと言える生徒。
- 「分からない。」と友だちに言われたら、最後まで責任を持って友だちに説明したり、教えたりすることができる生徒。

4 研究内容

- (1) 生徒どうしの「学び合い」を進める効果的な支援
 - ① 学習課題の設定の工夫
 - ・ 効果的な「共有課題」「ジャンプの課題」はどのようなものか。
 - ② 教師のかかわりの在り方（教師の居方）
 - ・ 「学び合い」が停滞した等の支援の内容とタイミング
 - ・ 生徒どうしの「つなぎ方」の方法
 - ③ 生徒の思考を深め、「学び合い」を深める板書のあり方
- (2) 教師同士が学び合う研究協議の在り方
 - ・ 生徒どうしの「学び合い」を見る視点の具体化
 - ・ 教師同士が「学び合う」研究協議の在り方
- (3) 家庭学習定着のためのしかけの工夫
 - ・ 宿題ボードの効果的な活用
 - ・ 家庭との効果的な連携の方法

5 研究組織



6 具体的な方法

- (1) 年間一人2回以上の研究授業と研究協議の実施
 - ・ 授業参観は「座席表」を活用し、生徒の「学ぶ」様子や発言を記録する。
 - ・ 研究協議は生徒の学ぶ姿を中心に発言をする。
 - ・ 授業参観を通して「学んだこと」を中心に、一人一回以上発言をする。
- (2) 生徒の「学び合う」様子を記録したVTRやカメラの活用
 - ・ 記録をもとに生徒の「学びあう」姿を確認し、その時の教師の居方を検証する。
- (3) 「学び合い」の効果を検証するアンケート等の実施
 - ・ 「学び合い」の効果を検証するために、生徒対象のアンケートを学期末に実施する。
 - ・ 全国学力学習状況調査や県学習状況調査の結果の経年変化をもとに検証する。
- (4) 若年教員の指導力向上を目的とした研究授業の実施
- (5) 家庭学習定着のための仕掛けの工夫
 - ・ 宿題ボードと学習計画表「きらら」を活用し、学習計画の指導と毎日の適切な評価
 - ・ 家庭学習に関する保護者アンケートを実施

7 全体研修年間計画

- 全教職員による授業参観と研究協議をする。
- 毎週水曜日、放課後を現職教育とする。

1 学期		2 学期		3 学期	
4 月	・年間計画、共通理解 ・授業公開、研究協議 (23 下家、30 金家)	9 月	・授業公開、研究協議 (17 岡本)	1 月	・授業公開、研究協議 (14 金家、21 三貴 28 大林)
5 月	・授業公開、研究協議 (14 三貴、28 大林) ・要請訪問 (20 金家) ・稲葉先生来校、授業 (29 未定)	10 月	・稲葉先生来校 (15 研究授業者未定) ・授業公開、研究協議 (22 金家、29 三貴) ・調査研究 (27 日～31 日)	2 月	・稲葉先生来校 (4 授業者未定) ・次年度方向性の検討
6 月	・調査研究(2 日～6 日) ・授業公開、研究協議 (4 岡本、11 内海 18 山神)	11 月	・授業公開、研究協議 (5 大林、12 内海 19 山神)	3 月	・1 年間のまとめ
7 月	・授業公開、研究協議 (2 下家) ・実践の検証(中間)	12 月	・授業公開、研究協議 (4 下家) ・3 学期の実践計画		
8 月	・文献の研究 ・2 学期の実践計画				

○*は若年研修と兼ねる

8 若年研修年間計画

- 若年教員の資質・能力及び指導力の向上を目指すことを目的とする。
- 全体研修年間計画の授業とは別途に、若年研修対象教員は学期に1度授業を行い、若年教員と現教担当で授業後討議議会を行う。その際、外部より指導者を招き、授業参観後教科指導をしていただく。

1 学期		2 学期		3 学期	
4 月	・年間計画、共通理解 ・授業公開、研究協議 (30 金家)	9 月		1 月	・授業公開、研究協議 (14 金家、21 三貴 28 大林)
5 月	・授業公開、研究協議 (14 三貴、28 大林) ・要請訪問 ・稲葉先生来校、授業 (29 授業者未定)	10 月	・稲葉先生来校 (15 授業者未定) ・授業公開、研究協議 (22 金家、29 三貴) ・調査研究 (27 日～31 日)	2 月	・稲葉先生来校 (4 授業者未定) ・次年度方向性の検討
6 月	・調査研究(2 日～6 日)	11 月	・授業公開、研究協議 (5 大林)	3 月	・1 年間のまとめ
7 月	・実践の検証(中間)	12 月	・3 学期の実践計画		
8 月	・文献の研究 ・2 学期の実践計画				